



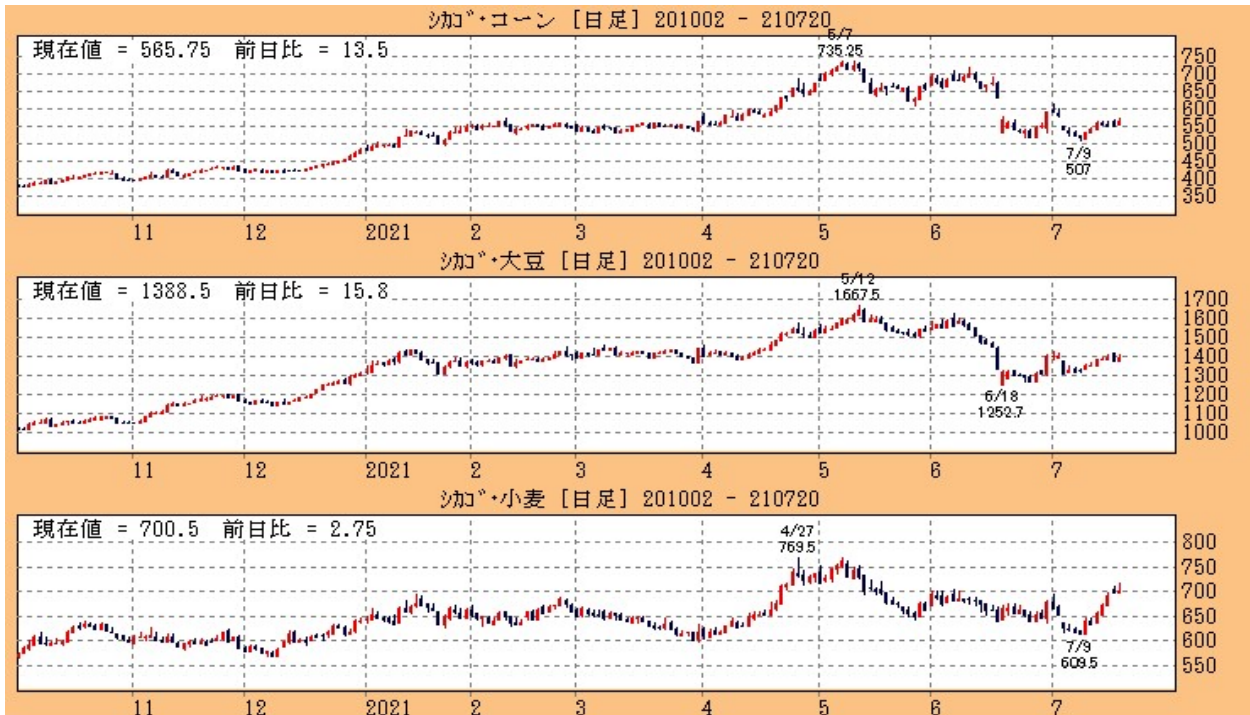
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシは続伸、大豆は反発

発行日 : 2021/7/21



20日のシカゴトウモロコシ12月限は前日比+13.50セント高の565.75セントと続伸。取引レンジは553.25～570.75セント。米農務省（USDA）が19日の取引終了後に発表したトウモロコシの作況指数は、前週と変わりなかったが、米産地の降雨に伴う作柄改善が予想されていたことから、米中西部の北側の乾燥が懸念され買いが先行した。また、今週後半以降、米産地では気温が上昇し少雨傾向になると予想されていることも強気要因となり、前日の高値を上抜くと、7月2日以来の水準となる570.75セントまで上昇した。

シカゴ大豆11月限は前日比+15.75セント高の1388.50セントと反発。取引レンジは1373.75セント～1406.25セント。米農務省（USDA）が19日の取引終了後に発表した大豆の作況指数は、前週から1ポイント上昇したが、期待された改善につながらなかったことで買いが先行した。また、米産地で今週後半以降に気温が上昇すると同時に少雨傾向が強まると予想されていることも強気材料となった。

シカゴ小麦9月限は前日比+2.75セント高の700.50セントと続伸。取引レンジは698.25～718.00セント。米農務省（USDA）が19日の取引終了後に発表した春小麦の作況指数は「優」「良」の占める割合が11%と、前週の16%から低下し事前予想も下回ったことから、作柄悪化に対する警戒感から買いが先行した。一時は5月18日以来の高値となる718.00セントを付けた。ただ、高値警戒感から上げ幅を縮小して取引を終了した。

TOPICs Crop Progress

トウモロコシ				18州
Silking	前年度	2020年度	過去5年平均	
6月27日	4%	4%	6%	
7月4日	9%	10%	14%	
7月11日	26%	26%	30%	
7月18日	55%	56%	52%	

トウモロコシ				18州
Dough	前年度	2020年度	過去5年平均	
7月11日	3%	3%	3%	
7月18日	8%	8%	7%	



大豆			18州
Blooming	前年度	2020年度	過去5年平均
6月20日	5%	5%	5%
6月27日	13%	14%	11%
7月4日	29%	29%	24%
7月11日	46%	46%	40%
7月18日	62%	63%	57%

大豆			18州
着サヤ	前年度	2020年度	過去5年平均
7月4日	2%	3%	3%
7月11日	10%	10%	10%
7月18日	23%	23%	21%

トウモロコシ							大豆						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良	作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
5月30日	1%	2%	20%	62%	14%	76%	6月6日	1%	5%	27%	57%	10%	67%
6月6日	1%	4%	23%	58%	14%	72%	6月13日	2%	6%	30%	53%	9%	62%
6月13日	1%	4%	27%	56%	12%	68%	6月20日	2%	7%	31%	51%	9%	60%
6月20日	1%	5%	29%	54%	11%	65%	6月27日	2%	7%	31%	50%	10%	60%
6月27日	2%	6%	28%	51%	13%	64%	7月6日	3%	8%	30%	49%	10%	59%
7月4日	2%	7%	27%	50%	14%	64%	7月11日	3%	8%	30%	49%	10%	59%
7月11日	2%	6%	26%	51%	14%	65%	7月18日	3%	8%	29%	49%	11%	60%
7月18日	2%	7%	27%	50%	15%	65%	前年度	2%	5%	24%	54%	15%	69%
前年度	2%	6%	23%	52%	17%	69%							

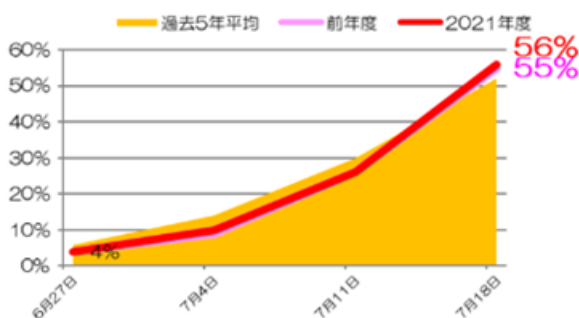
冬小麦			6州
Harvested (収穫)	前年度	2020年度	過去5年平均
6月6日	6%	2%	7%
6月13日	14%	4%	15%
6月20日	27%	17%	26%
6月27日	39%	33%	40%
7月4日	54%	45%	53%
7月11日	66%	59%	65%
7月18日	73%	73%	74%

春小麦			6州
Headed	前年度	2020年度	過去5年平均
6月13日	4%	8%	6%
6月20日	11%	27%	18%
6月27日	33%	48%	39%
7月4日	59%	69%	62%
7月11日	78%	83%	81%
7月18日	89%	92%	92%

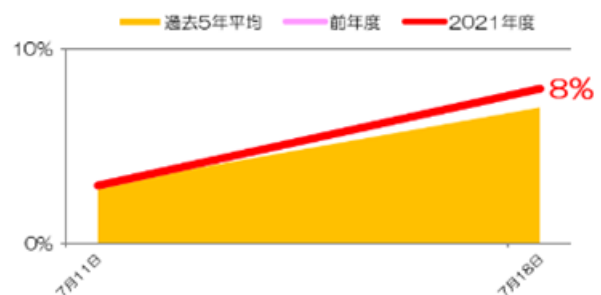
春小麦						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
5月30日	4%	16%	37%	39%	4%	43%
6月6日	9%	16%	37%	35%	3%	38%
6月13日	9%	18%	36%	34%	3%	37%
6月20日	15%	22%	36%	25%	2%	27%
6月27日	14%	25%	41%	18%	2%	20%
7月4日	18%	32%	34%	14%	2%	16%
7月11日	21%	34%	29%	15%	1%	16%
7月18日	29%	34%	26%	10%	1%	11%
前年度	2%	5%	25%	55%	13%	68%

7月18日までの週の米国のトウモロコシのSilkingは56%完了。昨年は55%、過去5年平均は52%。Doughは8%完了。昨年は8%、過去5年平均も7%、トウモロコシの作柄は、優と良が65%で前週とかわらず。前年は69%。大豆の開花は63%完了、昨年は62%、過去5年平均は57%。着サヤは23%完了、昨年葉23%、過去5年平均は21%。大豆の作柄は優と良が60%で前年の69%より少し悪い。冬小麦の収穫は73%完了、前年は73%、過去5年平均は74%。春小麦のHeadedは92%完了。昨年は89%、過去5年平均は92%。作柄は優と良が11%で前年の68%よりかなり悪く、不作と言えよう。

7月18日までのトウモロコシ
21/22年度の Silking 進捗状況

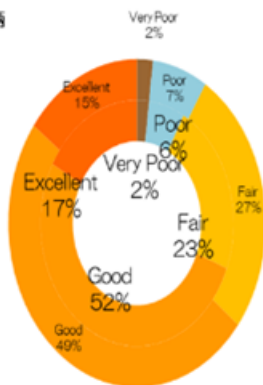


7月18日までのトウモロコシ
21/22年度の Dough 進捗状況

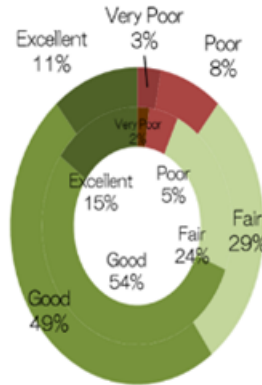




トウモロコシの作柄
(7月18日)
外側は2021年
内側は2020年



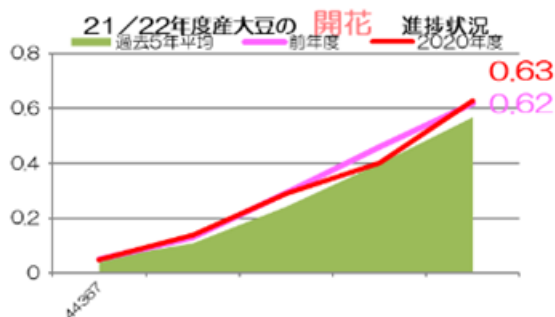
大豆の作柄
(7月18日)
外側は2021年
内側は2020年



2021年7月18日春小麦の作柄
(内側前年度：外側今年度)

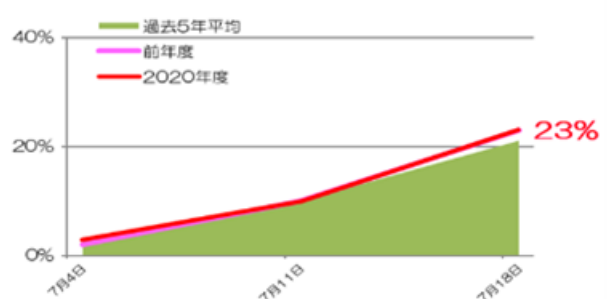


7月18日までのまでの

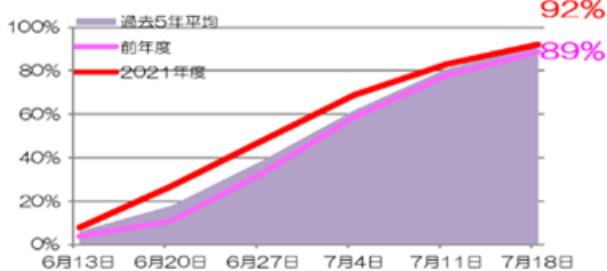


7月18日までの

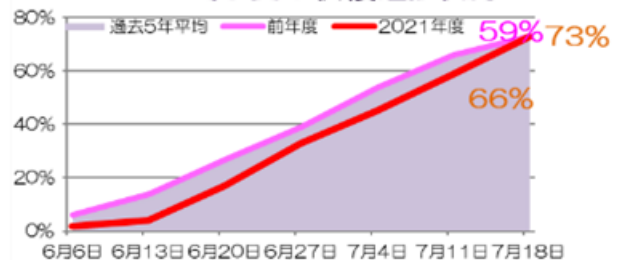
21/22年度産大豆の着サヤ進捗状況



7月18日まで21/22年度米国産
春小麦のHeaded進捗状況



7月18日まで21/22年度米国産
冬小麦の収穫進捗状況



TOPICs 中国のトウモロコシ需給 by USDA GAIN Report 7月1日

21/22年のトウモロコシ輸入量は2,000万トン

2021/22年度のトウモロコシ輸入予測は、2,000万トンとなっている。今年度に輸入されたトウモロコシが商業ルートに乗り、需要が軟化し、在庫の増加が緩やかになり、国内のトウモロコシ面積の拡大により生産量が増加すると予想している。世界の穀物価格や輸送コストが上昇しているため、輸入トウモロコシのこれまでの価格優位性は縮小している。飼料工場がモロコシの代替として大麦を使用するようになったため、大麦の輸入量が増加している。すべての兆候は、今年の小麦の豊作を示している。小麦は飼料用のトウモロコシの代わりに使われているが、輸入小麦が飼料に使用されるという報告はほとんどない。むしろ、古い小麦の在庫が飼料用として入札にかけられている。



中国の飼料用穀物

中国の2021/22年度の飼料その他の使用量は、2020/21年度比で+6.7%増の1,720万トンになると予測される。予測している。農業農村部（MARA）は、2021年の第1四半期末までに、全国の生きた豚の在庫と母豚の在庫が94.0%に回復したと述べた。MARAは、2021年の第1四半期末までに、全国の豚の在庫と母豚の在庫が、アフリカ豚熱（ASF）以前の2017年の（に回復するとしている。しかし、豚肉全体の生産量はASF発生前の水準を下回るとUSDAは考えている。2020年後半、ASFの再発により、中国の繁殖用の母豚と子豚の数が減少した。複数の省でASFの発生が報告されたため、これらの損失は2021年の第1四半期まで続いた。

2021/7/1 USDA GAIN

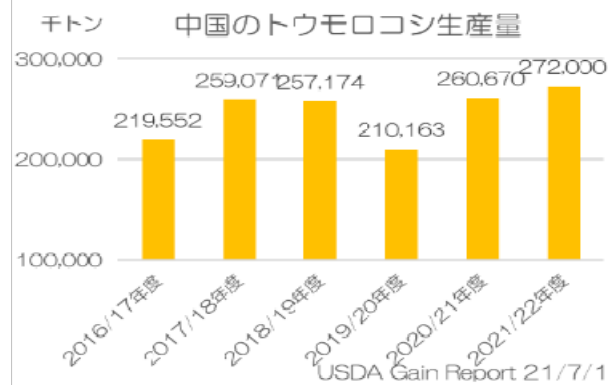
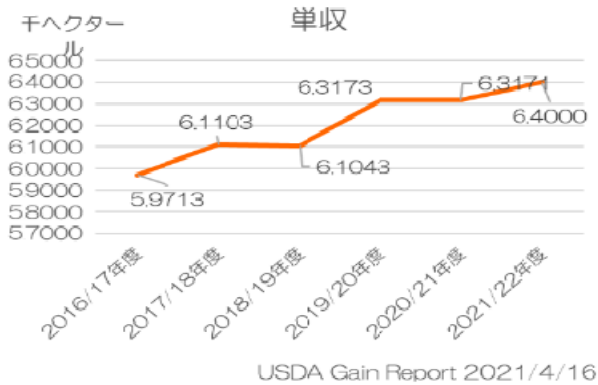
千ヘクタール・千トン	2016/17年度 (16年10月~)	前年比	2017/18年度 (17年10月~)	前年比	2018/19年度 (18年10月~)	前年比	2019/20年度 (19年10月~)	前年比	2020/21年度 (20年10月~)	前年比	2021/22年度 (21年10月~)	前年比
収穫面積	36,768	▲1,351	42,399	+5631	42,130	▲269	41,280	▲850	41,264	▲16	42,000	+736
期初在庫	110,774	+10302	223,017	+112243	222,525	▲492	210,163	▲12,362	200,526	▲9,637	206,176	+5650
生産	219,552	▲5,080	259,071	+39519	257,174	▲1,897	260,779	+3605	260,670	▲109	272,000	+11330
年度輸入	2,464	+0	3,456	+992	4,483	+1027	7,596	+3113	28,000	+20404	20,000	▲8,000
暦年輸入	2,464	▲710	3,456	+992	4,483	+1027	7,596	+3113	28,000	+20404	20,000	▲8,000
暦年米国の輸入	809	+488	308	▲501	319	+11	3,020	+2701	0	▲3,020	0	+0
在庫/生産+輸入合計	332,790	+4512	485,544	+152754	484,182	▲1,362	478,538	▲5,644	483,196	+4658	498,176	+14980
年度輸出	77	+73	19	▲58	19	+0	12	▲7	20	+8	20	+0
暦年輸出	77	+73	19	▲58	19	+0	12	▲7	20	+8	20	+0
飼料その他	162,000	+8500	187,000	+25000	191,000	+4000	193,000	+2000	196,000	+3000	211,000	+15000
食料用	70,000	+6000	76,000	+6000	83,000	+7000	85,000	+2000	87,000	+2000	87,000	+0
国内総需要	232,000	+14500	263,000	+31000	274,000	+11000	278,000	+4000	283,000	+5000	298,000	+15000
期末在庫	100,713	▲10,061	222,525	+121812	210,163	▲12,362	200,526	▲9,637	206,176	+5650	200,156	▲6,020
期末在庫率	30.26%		45.83%		43.41%		41.90%		41.90%		42.15%	+0
生産+輸入	222,016	▲5,790	262,527	+40511	261,657	▲870	200,526	▲61,131	288,670	+88144	292,000	+3330
国内需要+輸出	232,077	+14573	263,019	+30942	274,019	+11000	278,012	+3993	283,020	+5008	298,020	+15000
需給バランス	▲10,061		▲492		▲12,362		▲77,486		+5650		+63	▲5,587
需要合計	332,790	+4512	485,544	+152754	484,182	▲1,362	478,538	▲5,644	489,196	+10658	498,176	+8980
単収	597130	+0.08	611030	+0.14	6.1043	▲0.006	6.3173	+0.213	6.3171	▲0.0002	6.4000	+0.0829

中国のトウモロコシ生産量は前年比+1,130万トン増

21/22年度のトウモロコシ生産量は、作付面積の増加と通常の収量を想定し、前年比+1,130万トン（+4.3%）増の2億7,200万トンとなる見込み。中国で最も重要なトウモロコシ生産省のひとつである黒龍江省のトウモロコシ作付面積は、今年+110万ヘクタール、前年比+27%増となった。全国のトウモロコシ作付面積は+210万ヘクタール、前年比+6.2%の増加が見込まれている。作付面積の増加は、価格の高騰と政府の政策がトウモロコシの増産を奨励または義務化したことによるものである。

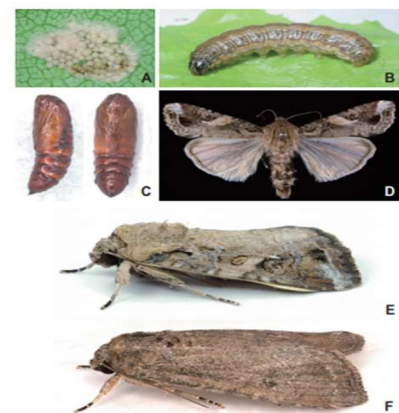


USDA Gain Report 21/7/1



害虫被害

2020 年の Fall Army Worm (FAW: ツマジロクサヨトウという名の害虫: 写真右: 出所: 農林水産省) の影響は予想よりも小さかったものの、今年の影響はまだ不明である。中国農業科学院 (CAAS) は、今年はFAWの発生を防ぐためにさらに大きな圧力がかかるだろうと予測している。メコンデルタの天候はより多くのFAWが中国南西部に進出することが予想されている。

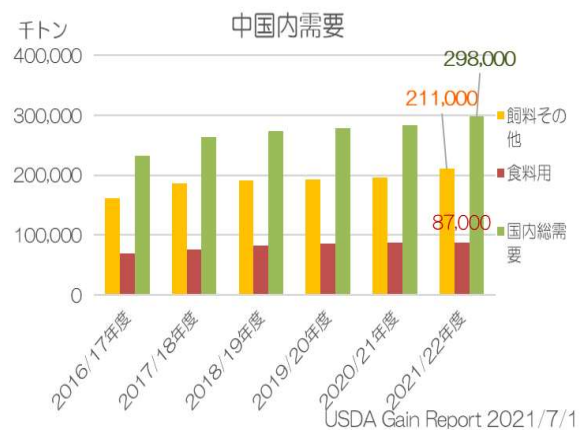


21/22年度の飼料用トウモロコシ需要は+1500万トン増

21/22 年度の飼料用トウモロコシその他の使用量は、20/21 年度よりも +1,500万トン多い 2億1,100万トンになると予測している。

これは、養豚場の再整備と飼料工場がトウモロコシ飼料に切り替えることによるもの。飼料工場は他の穀物よりもトウモロコシを好むと報告しており、価格が合えば、トウモロコシに戻すだろう。トウモロコシは飼料工場にとって飼料の最初の選択肢である。さらに 飼料工場は、モロコシ (Sorghum) の味の特徴は豚にとってそれほど好ましくないと述べている。

20/21 年度のトウモロコシの飼料その他の需要は1億9,600万トンと推定され、昨年度より+ 300万トン多いだけである。業界の専門家は、飼料用のトウモロコシの代わりに 4,000万トン近い代替穀物が使用されていると予測している。



工業用トウモロコシの需要は引き続き低迷

USDAは、21/22年度の工業用トウモロコシの需要は引き続き低迷すると予想している。澱粉業界は5月に平均62.1%の生産能力で操業した。5月の平均稼働率は62.1%で、4月に比べて▲1.8%低下したが、前年同期(新型コロナウィルスパンデミックの影響を受けた時期)に比べて+10%増加した。トウモロコシ価格の高騰により、工場は採算性の確保に苦労している。トウモロコシによるエタノールプラントの稼働率は、5月には平均34.4%で、4月に比べ▲0.4%低下し、2020年5月より▲10%低下した。



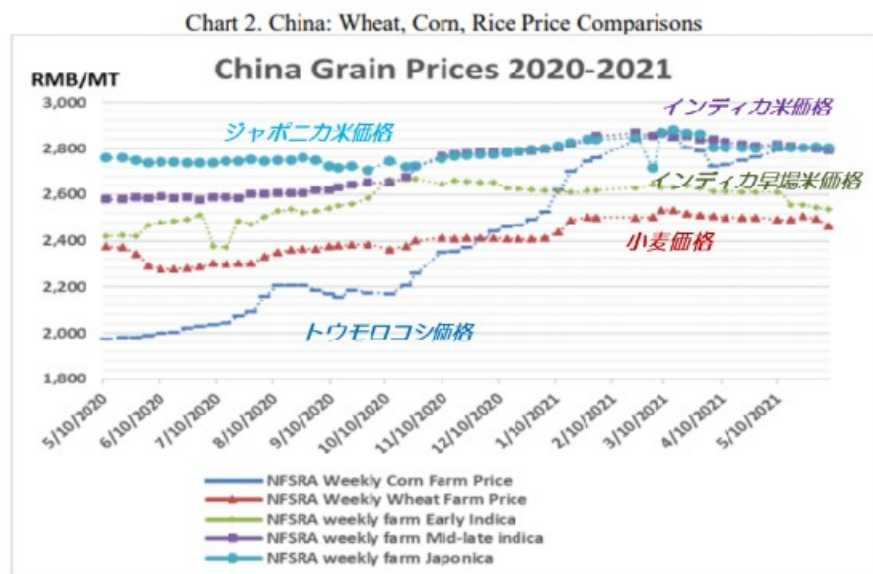
食品・種子・加工用トウモロコシの需要は引き続き低迷

食品・種子・工業用（FSI）のトウモロコシ消費量は、21/22年度は、20/21年度と共に、USDAのの予測を+400万トン上回った。これは、カビやアフラトキシンの多いトウモロコシのほとんどがディーブプロセスに回されているためである。同量の製品を生産するための転換率は例年よりも低くなるが、高カビ・高アフラトキシンのトウモロコシのほとんどはディーブプロセスに向けられる。同量の製品を生産するための転換率は例年よりも低くなる。測している。これは、消費は堅調に推移しているものの、大量の繰越在庫と生産量の増加を反映したものである。

中国内トウモロコシ価格は前年同期より+37.1%高

中国の5月のトウモロコシ平均価格は、441 ドル（2,825 元）／トンで、4 月から +7.6 ドル（48.8 元）／トンの若干の値上がりとなったが、昨年同期よりは+37.1%高くなっている。

業者の中には、コストの回収や将来の値上げによる利益を期待して在庫を抱え込む者もいるという。しかし業者の投機は、政府がトウモロコシ価格高騰の真の原因である真の不足や在庫の枯渇を隠すためのスケープゴートとして利用されているという見方もある。

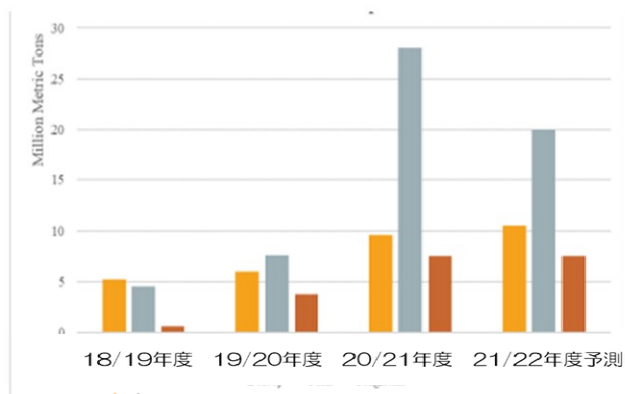


輸入トウモロコシの価格は上昇し、価格競争力が無くなっている

6月は伝統的にトウモロコシの供給が少ない時期で、7 月到着分の価格はトン当たり 453 ドル（2900 元）にまで上昇しており、輸入トウモロコシは国産トウモロコシに対する価格優位性を失っている。6月には3回の特別オークションが開催され、合計 66,391 トンの輸入ウクライナ産トウモロコシが出品された。

販売されたトウモロコシの平均価格は、441 ドル（2825人民元）から430ドル（2750人民元）に下がった。6月21大連商品取引所のトウモロコシ契約は1 トンあたり 401 ドル（2568 人民元）という 6 か月ぶりの安値になった。

中国の年度別飼料用穀物輸入量



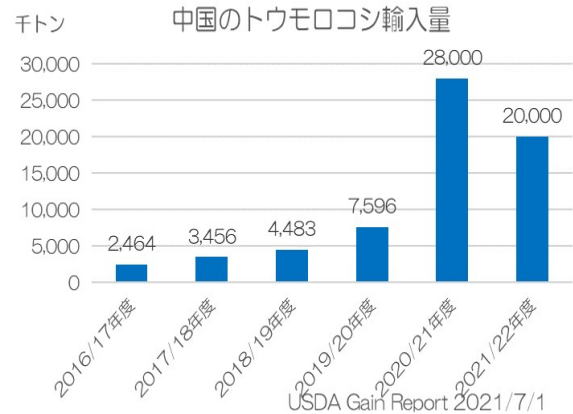
トウモロコシ
小麦
大豆



21/22年度の中国のトウモロコシ輸入量は2,000万トンに▲600万トン引き下げ

USDAは21/22年度のトウモロコシ輸入量予想は、公式予想を▲600万トン下回る 2,000万トンに引き上げられた。
来年にかけてトウモロコシ価格が冷え込み、在庫の積み増しが緩やかになり、輸入トウモロコシが最終的に市場に入ることによって需要が軟化すると予想している。業界では、中国の人民元が米ドルに対して上昇したことで、一部の購入が行われたと推測している。

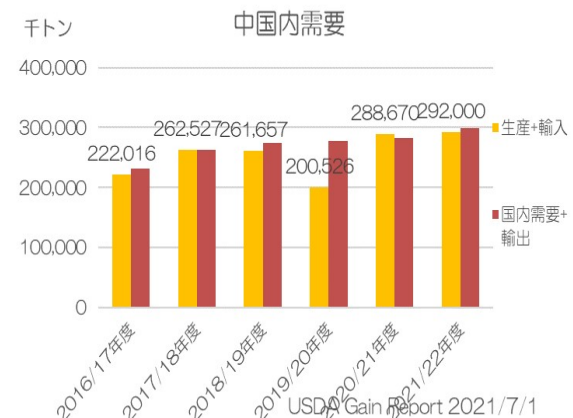
USDAでは、20/21年度のトウモロコシの輸入量を、公式予測を 200万トン上回る2,800万トンと予測している。これは、国内価格の高騰と補充のための強い輸入需要が続いているためである。5月には、国際穀物価格の上昇と輸送費の増加により、輸入トウモロコシの価格



21/22年度の中国のトウモロコシ輸入量は2,000万トンに▲600万トン引き下げ

業界では、一時的な備蓄レベル、生産、需要、代替品に基づいて、20/21年度のトウモロコシの需給は▲3,000万トンの供給不足になると予想している。また、中国が米中フェーズ1経済貿易協定に基づく購入義務を果たすために、米国産トウモロコシを輸入するための「特別TRQ」が発行されるという市場の憶測もある。

21/22年産トウモロコシの最終在庫量は、USDAの予測を+2,000万トン上回る 2億20万トンと予測している。これは、消費は堅調に推移しているものの、大量の繰越在庫と生産量の増加を反映したものである。



今後の予想

2021年の米国産トウモロコシの中国向け輸出量は全体の約3割を占め、向け先別のトウモロコシ輸出では第一位となっているため、中国の需給は米国産トウモロコシ価格に多に関係のある所となっているのが、今年の特徴である。（以前は20位にも入っていなかった）その中国ではアフリカ豚熱の終焉により飼料用需要が回復し、トウモロコシ需要が増加している。一方でトウモロコシ価格が上昇したため、中国国内のトウモロコシ生産も増加している。その需給と輸入がどれだけなされるかが今年の焦点となっているが、潤沢な供給と、人民元高等による輸入品の価格競争力の低下で、昨年度ほどは輸入量は多くない見込みである。それでも2千万トンあり、また中国政府は政策的に輸入する可能性もある。そうした動きを今後も注目したい。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行なっておりません。また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的財産はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

発行元：



株式会社コモディティ インテリジェンス 〒181-0012東京都三鷹市上連雀1-1-5三鷹ロイヤルハイツ706号
会社電話：0422-56-9819 携帯電話 090-1628-0583 メールアドレス: kondo@commi.cc